

令和6年度 学校推薦型選抜 小論文A 【解答例】

人文社会科学部 現代社会学科

法律経済学科

問1

「通常の」不況では男性の雇用への影響が女性よりも深刻である。他方、COVID-19の不況では、女性比率の高いソーシャルディスタンスが必要な分野での雇用が落ち込み、女性への影響がより深刻な点が異なる。

問2

男性の雇用の比較的多くは「標準的な」景気後退の影響を強く受けている産業(製造業や建設業など)で働いているが、一方で女性の雇用は医療や教育などの景気循環の影響を受けにくい分野に集中しているため。

問3

COVID-19の影響により、アメリカの大半の州では他の国と同様、学校や子どものデイケア施設を閉鎖した。世界では15億人の子どもが学校に通っていない。これにより、家庭での子どもの世話の必要が劇的に高まっている。加えて、隣人や友人の間で互いに子どもの世話をすることも、ソーシャルディスタンスをとる必要から限定的である。よって、大半の家庭では、子どもの世話は自分たちで行うしかない。多くの家庭での子どもの世話の分担にかんがみると、母親のほうが父親より大きな影響を受けると考えられる。シングルマザーは、アメリカに多く存在し、そもそも経済的に困難な状況にありがちだが、彼女たちは最も深刻な影響を受ける。

問題4

第1に、より柔軟な勤務形態への変化である。COVID-19の影響で、多くの企業が在宅勤務やテレワークを採用した。日本の企業でも、こうした柔軟な勤務形態が定着しつつある。子を持つ女性の従業員は、仕事と子育ての両立に苦しんでいる方も多いため、こうした変化により便益を享受することが期待される。また、第2に、社会規範とロールモデルの変化である。日本では、ジェンダーバイアスが根強く存在してきた。だが、COVID-19のステイホームを機に多くの父親が、子育てや家庭学習に従事し、父親がその主たる担い手になる場合もある。こうした変化は、子育て等に関する社会規範をより男女平等な方向へと促進する。